

上北農業生産情報 第5号

令和7年8月26日
青森県上北農林水産事務所

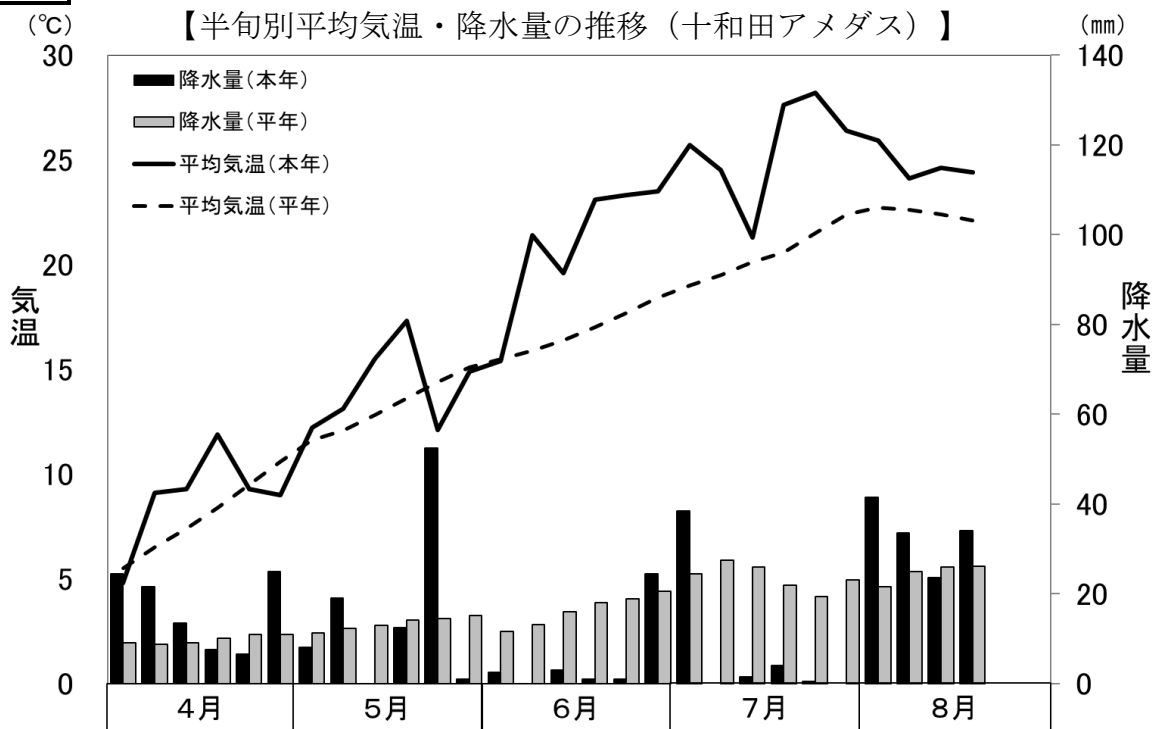
【水稻の適期刈り取りにつとめましょう！】

○ 刈取りの遅れは品質低下につながるので、適期刈り取りにつとめましょう！

【農作業中の熱中症に注意しましょう!!】

- 高温時の作業は避けましょう！
- こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょう！
- 1人での作業は避け、出かける前に家族に一声かけましょう！
- 熱中症対策グッズ（帽子・空調服等）を活用しましょう！

気 象



【7月】

- ・ 平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・ 日照時間は、期間を通して平年を上回った。
- ・ 降水量は、期間を通して平年を下回った。

【7月の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 hr		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	25.1	19.3	29.7	23.8	21.3	15.6	65.8	41.8	38.5	53.8
中 旬	24.5	20.3	29.7	24.6	20.0	16.8	54.4	39.4	5.5	49.2
下 旬	27.2	22.3	32.4	26.8	23.0	18.6	75.3	51.7	0.5	43.0

注）気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【8月上中旬】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、期間を通して平年を上回った。
- ・降水量は、期間を通して平年を上回った。

【8月上中旬の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 hr		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	25.0	22.8	29.9	27.5	21.3	19.0	56.1	53.3	75.0	48.9
中 旬	24.5	22.2	30.3	26.6	19.3	18.6	75.1	45.8	57.5	47.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報（8月23日～9月22日までの天候見通し）

令和7年8月21日 仙台管区気象台 発表

- 東北太平洋側では、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 平均気温は、高い確率70%です。
- 降水量は、平年並の確率40%です。

水 稲

《生育状況》

管内の出穂最盛期（50%出穂）は、平年より9日早い7月26日であった。

【上北管内の市町村別水稻出穂状況】

市町村	作付面積 (ha)	出 穂			最盛期の 平 年 差	備 考
		始め	最盛期	終わり		
十和田市	3,170	7月22日	7月25日	7月28日	早 9日	[出穂始め] 5%到達日
七戸町	1,610	7月23日	7月27日	7月29日	早 8日	
東北町	1,230	7月23日	7月26日	7月28日	早 9日	
野辺地町	23	7月23日	7月25日	7月28日	早11日	[出穂最盛期] 50%到達日
横浜町	144	7月23日	7月27日	7月29日	早10日	
三沢市	215	7月25日	7月28日	8月 2日	早10日	
六戸町	699	7月22日	7月25日	7月31日	早10日	[出穂終わり] 95%到達日
おいらせ町	521	7月23日	7月27日	8月 1日	早10日	
六ヶ所村	22	7月23日	7月25日	7月31日	早12日	
管内全体	7,634	7月23日	7月26日	7月29日	早 9日	

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

落水時期が早すぎると、玄米の肥大が抑えられ、収量や品質・食味の低下を招くので、湿田では出穂後20～25日、乾田では出穂後30～35日を目安に落水する。

2 刈取り

- (1) 「まっしぐら」の刈取適期の始め(出穂後の積算気温 960℃の到達日)は、出穂期が7月27日のほ場で9月10日頃になると見込まれる。

「まっしぐら」の刈取適期の目安

十和田アメダス：8月17日まで実測値、8月18日以降は平年の平均気温+2℃で積算（8月になってから平年気温+2.3℃のため）。

刈取適期	出穂期				
	7月23日	7月25日	7月27日	7月29日	7月31日
適期始め	9月5日	9月7日	9月10日	9月12日	9月14日
適期終わり	9月17日	9月19日	9月21日	9月24日	9月27日

注) 適期始めの目安は出穂後積算気温 960℃到達日、適期終わりの目安は出穂後積算気温 1,200℃到達日

- (2) 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晚や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度（ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期）や籾水分（25～26%程度まで減少した時期）等から総合的に判断する。
- (3) 本年は出穂後の高温により、刈遅れによる茶米や胴割米の多発が懸念されることから、特に適期内の刈取りに努める。

3 乾燥

- (1) 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間以上貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- (2) 「良食味・高品質米」生産のため、適正水分15.0%を目標に乾燥する。

4 その他留意する点

- (1) 降雨に備え、刈取り前までに排水路の整備を行う。
- (2) 大雨等で倒伏した場合は可能な限り株起こしを行う。また、冠水したほ場では、可能な場合は動力噴霧機で散水し、稲に付着した泥を洗い流す。また、早期の倒伏や冠水被害は品質の低下が懸念されるので、できるだけ別刈り、別乾燥、別出荷する。
- (4) コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの開花期は、平年より6日早い7月23日で、8月8日現在の草丈は平年よりかなり長かった。晩播狭畦栽培では、ほ場の一部で倒伏が見られる。
- 2 ベと病の発生が少程度見られるほか、食葉性害虫による食害が散見される。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	開花期 (月/日)	8月8日現在 草丈(cm)	備 考
十和田市赤沼	本年	7/23	111.4	6/5 は種(平年:6/1)
	平年	7/29	92.4	
	前年	7/26	97.0	

注) 平年値は平成22年～令和6年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

- (1) マメシクイガの防除は原則2回防除とし、1回目は8月第5半旬、2回目はその7～10日後に行う。1回防除の場合は8月第6半旬～9月第1半旬に行う。
- (2) 紫斑病は、開花期後20～40日を目安に薬剤散布を行う。マメシクイガ防除との同時散布が可能である。
- (3) チオファネートメチル剤、ベノミル剤、アゾキシストロビン剤は、紫斑病に対する耐性菌が確認されているので、昨年使用した場合は別の薬剤を使用する。

小 麦

《今後1か月間の主な作業》

- 1 は種予定のほ場で雑草が発生している場合は早めに耕起し、雑草をすき込む。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよを施工し、十分な排水対策を行う。
- 3 地力増進のため堆肥を施用するほか、土壌分析を行い、適正 pH6.0～6.5 となるように苦土石灰等を施用する。
- 4 適期(9月15日～25日)には種できるよう、耕起・砕土などのほ場準備を行う。耕起・砕土は、出芽や苗立ちの確保に関わるので、丁寧に行う。
- 5 雪腐病などの防除のため、薬剤による種子消毒を徹底する。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月8日現在の生育は、いも長 52.0cm(平年比 117%)、いも重 487.3g(平年比 171%)と平年を大幅に上回り、いも径 46.3mm(平年比 115%)と平年をかなり上回っている。
- 2 一般ほ場でも、気温が高く乾燥ぎみで推移したものの8月に入り降雨もあり、おおむね順調に生育している。
- 3 ナガイモコガ、コガネムシ類による葉の食害が見られる。また一部でカメムシによる食害も見られる。

【生育観測ほの生育状況(種いも：庄司系2年子芽付き100g)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	つるのネット頂 到達日 (月/日)	8月8日現在		
				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町滝沢平	本年	5/14	7/ 1	52.0	487.3	46.3
	平年	5/ 8	7/ 7	44.4	284.6	40.2
	前年	5/11	6/29	57.8	577.5	49.6

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風に備えて支柱の補強や、明きよの設置等排水対策を徹底する。
- 2 病害虫防除は、炭そ病、葉渋病、ナガイモコガの防除を中心に計画的に行う。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月8日現在の生育は、草丈、茎径とも平年を下回った。
- 2 生育観測ほの収穫期は、平年より2日早い8月19日となり、収量は平年をやや下回った。品質はA品が平年よりやや高い68.5%だった。
- 3 一般ほ場では、7月上旬から出荷が行われているが、乾燥により肥大は遅れている。
- 4 一部のほ場でさび病、斑点性病害や軟腐病、ネギアザミウマの被害が見られる。
- 5 一部のほ場で7月の乾燥の影響により、葉先枯れ症状が見られる。

【生育観測ほの生育状況(品種：夏扇パワー)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	8月8日現在		収穫時		
				草丈 (cm)	茎径 (mm)	収穫期 (月/日)	収量 (kg/10a)	品質 A品 (%)
十和田市洞内	本年	1/20	4/10	92.3	25.8	8/19	3,876	68.5
	平年	1/27	4/13	106.3	26.8	8/21	4,047	59.6
	前年	1/23	4/2	91.0	22.7	8/20	4,161	62.1

注) 平年値は令和2年～令和5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 明きよの設置等排水対策を徹底する。
- 2 生育の進み具合に合わせ、葉色が淡くなりすぎないように追肥を行う。また、最終培土(収穫予定の20～30日前が基準)は、適期に行う。
- 3 病虫害防除は、さび病、斑点性病害、軟腐病の防除を中心に計画的に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月8日現在の生育は、草丈が平年を下回ったものの、葉数は平年を大幅に上回った。
- 2 5月中旬までには種した一般ほ場の生育は概ね順調であるが、5月下旬～6月上旬には種した一般ほ場の生育は、高温・乾燥により生育ムラが見られる。
- 3 病虫害はハムシ等による葉の食害が散見されている。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	8月8日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/14	98.4	4.0
	平年	5/2	114.2	2.9
	前年	5/16	106.2	3.4

注) 平年値は平成27年～令和6年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒斑細菌病及び黒条病を主体とした病害の予防防除のほか、ヒョウタンゾウムシ及びアブラムシ類の防除を実施する。

牧 草

《生育状況》

生育観測ほでは、平年より2日遅い7月18日に2番草を収穫し、10a当たり乾物収量は179kg、平年比73.1%と少なくなった。

【生育観測ほの2番草収量状況(オーチャードグラス主体)】

調査地	年次	収穫日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)	乾物収量平年比 (%)
十和田市大不動	本年	7/18	69.5	179	73.1
	平年	7/16	78.7	217	—
	前年	7/16	71.3	245	112.9

注) 平年値は平成27年～令和6年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 2番草の収穫及び追肥

2番草を収穫していないほ場は、速やかに収穫するとともに追肥する。

2 草地の更新

牧草の収量が減少してきた草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。今後は以下により作業を進め、9月末を目途に、は種を終えるようにする。

(1) 土壌改良・は種床造成を終えている場合

は種床造成後、3～4週間放置し、雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布して、雑草表面が乾いてから、牧草の施肥とは種を行い鎮圧する。

(2) これから草地更新する場合

ア 土壌改良・は種床の造成

堆肥の散布と耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。

イ 3～4週間放置

は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。

ウ 除草剤散布

雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

エ は種・施肥・鎮圧

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほの絹糸抽出期は7月27日で平年より10日早い。

【生育観測ほの生育状況(品種：スノーデント110)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月20日現在		雄穂抽出期 (月/日)	絹糸抽出期 (月/日)
			草丈(cm)	葉数(枚)		
東北町北栄	本年	5/25	251.7	12.0	7/25	7/27
	平年	5/28	160.2	12.3	8/4	8/6
	前年	6/2	203.2	10.8	8/1	8/4

注) 平年値は、平成30年～令和6年の7か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場ごとの刈取適期(黄熟期)を確認しながら、計画的に刈取りを進める。

2 大雨・強風等による倒伏・折損が発生したほ場では、速やかに刈取る。